

のうさぎのこうぶく 三幕

雨や風をしのげる居場所と、言葉が通じ、自分を映してくれる友達さえあれば、子どもおとなも、私たちはやっていけると思うのです。(脚本・演出／山根裕子)



① いえ

片山令子・文 片山健・絵 ビリケン出版刊

のうさぎさんの家のドアが、閉まらなくなったのでおかみくんが空き家をさがしてくれることになりました。のうさぎさんは待ってる間、散らかし放題にしていた家を、きれいに掃除することにしました。(本書紹介文より)



② ともだち

片山令子・文 片山健・絵 ビリケン出版刊

文句屋のふくろうくん和小川に行ったのうさぎさんは、そこで着ていたチョッキをなくしてしまいました。文句ばかりのふくろうくんですが、たった一着しかないチョッキをなくしてしまったのうさぎさんを見ていたら……。 (本書紹介文より)



④ みずうみ

片山令子・文 片山健・絵 ビリケン出版刊

ある日、ふくろうくんがのうさぎさんの家に来て、拾った鏡を置いていきました。その鏡をのぞいたくまさんとおかみくんは、湖に映る見なれた自分の姿とあまりに違っていて驚いてしまいました。そして、哀しくなりました……。 (本書紹介文より)

太い眉ののうさぎさんと友達とのやり取りが素敵で、洒落っていて、まるで詩集のよう。声に出して読みたくなる。小さな人たちの決して小さくない世界観。初めてこの絵本に出会ったとき、ふと少女時代に読んだ『少女バレアナ』を思い出しました。そして下駄をはいて土の上を走りまわっていた頃の自分が、じわじわと蘇ってきました。詩人片山玲子さんと画家片山健さんの、草と土と花と風と太陽の匂いたつ絵本の世界を、今を生きる観客の皆様とシェアできたらと作品づくりが始まっています。どうぞご期待ください♡(制作・演出／永野つむぎ)



人形劇団
ひぽぽたあむ

人形劇団ひぽぽたあむの人形劇はおもに片手使いの人形で演じられます。俳優は衝立の後ろに隠れていて、観客の皆さんには人形しか見えません。人形は演技者の技と観る人の想像によって生き生きと動き出します。生の人間ではない「人形」だからこそかえって人間の世界を深く描きだすことが可能になります。私たちはそこに人形劇ならではの世界があると信じています。